

# COLUMN

鎌倉の猫事情  
第百五話



ミルクホールの朝は、カラスとの戦いから始まります。改築前にはブロックの塀で囲まれていた調理場が、改築のために塀が取り払われ、その様子が空から丸見えになってしまったからです。カラスたちは、毎日監視を怠りません。前日の夜、ちょっとした食べ残しや、野菜くずなどを袋に詰めたのを日の出とともに空からの飛行で目ざとく見つけて攻撃を仕掛けてきます。今までなかった新たな対立関係が、改築によって生まれたのです。逆に調理場が開放されて、すずめとの友好関係が深まりました。お釜の底に残ったご飯を裏口に撒いて置くと、カラスより少し遅れてすずめがチュンチュン言いながら、ついばみに来るのです。可愛いものです。きれいに食べていってくれますから、協力関係はついに信頼関係にまで発展し、近くの電柱の天辺に巣まで作って暮らすようになりました。どちらも去年まではなかったことなので、しみじみ家の事情は町に生きる動物たちにこんなに影響するものかと考えてしまいます。しかし考えて見ると、ここにグーニーがいないというのも鳥たちには、攻撃するにも、友好関係を結ぶにしても、安心なことなのでしょう。スィーピーは、おっとりした外見に似合わず戦闘的で、狩猟はグーニーよりずっと上手でした。よく昔は鳩や、ウズラなど大きな鳥をくわえて帰って来ては、私たちを驚かせていました。それに引き換えグーニーが意気揚々と見せに来るのは、ネズミ止まりで、空を飛ぶ鳥には手が(足?)出なかったものです。それでも、朝日が高くなっても部屋でごろごろしているスィーピーと違い、グーニーは朝起きると必ず物干し台へ行って、監視の目を光らせ、一日に何度もそれを繰り返していましたから、鳥たちもさぞ近寄り難かったのでしょう。近頃は、スィーピーものんびり表で遊ぶことはあっても、狩りに出かける戦闘モードにはなっていないようですし、何よりこの界限は、めっきり野良猫たちの出入りがありません。今しばらく、裏路地は鳥たちの天下が続くそうです。

————— to be continued



## Planet private 2

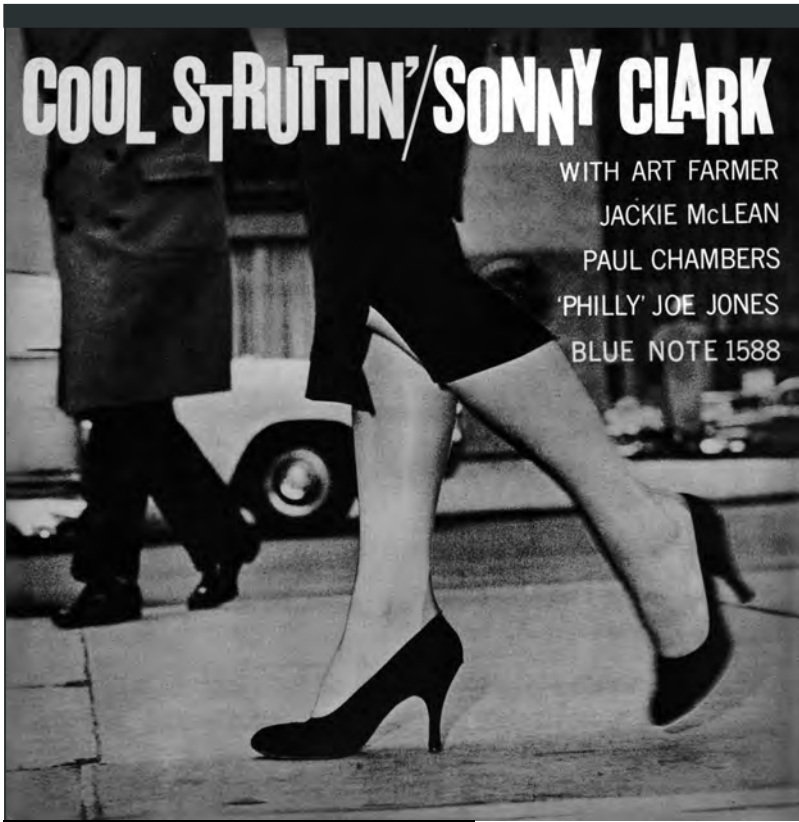
その時の旅は、私の記憶では釜石から、気仙沼、大船渡に立ち寄り、宮古へと周ったと思っていました。ところが、後で地図を調べてみるとどうもその道筋には無理があることに気づきました。釜石は気仙沼や大船渡よりずっと北に位置していて、夕日に輝く松島を通り、夜の釜石に入るといのはあり得ないのです。どうやら、年月が経って幾度かの旅の記憶が混じりあってしまったようです。ただその年は夏がとて寒かったと記憶しています。私の記憶の中では、南から三陸海岸を北上してその後、山間に入り、日本海へ抜けたことになっています。釜石の暗い夜の街、大船渡の入り江は、三陸海岸とは対称的におだやかで静かな海だったこと。そして、気仙沼港は、雄々しくて、それでいて哀愁のある港町だったこと。そんな風景が私の心の片隅にずっと何十年も消えずに、今も故郷への郷愁のように残っています。

その港は、町が途切れると突然現れました。道の前には、深い深い海があり、小さな港町に巨大な遠洋漁業の船が頑丈な碇のように立ちはだかっています。高いマストを見上げると魚の端切れを狙って集まってくるカラスの群れで不気味に真っ黒な山のようにっており、子供の頃に読んだ「白鯨」に出てくる捕鯨船が寄航する港の場面のように見えました。港の前には、「土筆」という名の小料理屋があり、ほや貝の酢の物などを食べた記憶があります。お店が置いた落書き帳があるのを見つけて、めくって見ると、遠洋漁業の船で働く船乗りたちが気仙沼港に寄港し、その都度、「土筆」に立ち寄り、陸で味わう食事のひと時を楽しみにしていると云うようなことが



書かれていました。そんな話を読みながら、窓のすぐ外でドーンという唸り声を上げる低く深い波の音を聞いているうちに、私はまるで自分が船乗りになって、荒れ狂う大海原へ船出していきそうな心持ちになっていました。きっと、これから自分も一人生きていくんだという、なんだか空威張りにも似た意気込みが、そんな空想を抱かせたのでしょう。可笑しいような物悲しいような、私の世間へ踏み出す一歩でした。私が学生時代を過ごし、そしてひとり歩きを始めた1970年代は、そんな風に可笑しいような物悲しいような雰囲気がありました。大荒れに荒れた70年代の学園紛争への熱は、浅間山荘事件を境に急激に冷めていきましたが、燃え盛った炎は、消えてもまだ熱く余韻を残していました。まるであの旅の途中、釜石で見た製鉄所が落とした火が夕暮れの山を真っ赤に染めていたように、70年代の街は、夕暮れの赤い光に染まっているかのようでした。その時代に歩き、見た東北三陸海岸の力強さは、私がそれまで抱いていた日本のイメージを遥かに超えたもので、あの風土の素朴な力強さは目の前の深い海に立ち向かって生きて来た人達そのものだと感じました。そして、旅から戻った私は、その旅に勇気づけられ、押されるようにして、私自身の海に、船出したのです。





# COOL STRUTTIN' / SONNY CLARK

WITH ART FARMER  
 JACKIE McLEAN  
 PAUL CHAMBERS  
 'PHILLY' JOE JONES  
 BLUE NOTE 1588

## SONNY CLARK

ソニー・クラーク  
 1931年7月21日-1963年1月13日

アメリカ合衆国ペンシルベニア州出身のジャズ・ピアニスト。主にブルーノートから作品を発表した。  
 4歳でピアノを始め、ピアノの他にヴィブラフォンも演奏していた。1951年には西海岸を拠点に音楽活動を開始。1954年1月、ビリー・ホリデイのケルン公演に参加。1957年、ニューヨークに移りソニー・ロリンズと共演。同時期にブルーノートと契約。代表作として挙げられるのは、上記のかっこいいジャケットで有名な『クール・ストラッティン』(1958年)。日本で人気が高く、ジャズ喫茶で頻繁に流された。ソニーはサイドマンとしても重宝され、リー・モーガンの『キャンディ』やデクスター・ゴードンの『ゴー!』等、多数のアルバムに参加した。  
 1963年1月13日、ヘロインの過剰摂取により31歳で亡くなる。  
 没後も日本での人気は高く、1986年の第1回マウント・フジ・ジャズ・フェスティバルでトリビュートバンドが『クール・ストラッティン』再現セッションを行った。

## HISTORY

### KAMAKURA 場所の記憶 No.52

#### カフェー カマクラ

下記の写真の建物は、鎌倉駅東口を出て正面前方右角にあったものだった。背後には二階建ての旅館らしきものがあり、松林も移っている。  
 大正デモクラシーの時代、アメリカで修行した開家のふたりの青年が、ひとは銀座、ひとは鎌倉駅前の右角でカフェを開いた。ビール、アイスクリーム、洋食、そして果物店も営んだ。ところがその後、実家の鎌倉実業銀行が倒産し、閉店となった。やがて、実家と取引のあった明治製菓がパーラーを開店した。戦後は食堂、ついで西武デパート、第一勧銀と経営が変わっていく。デパート五階には当時流行っていた展望食堂、地下の食品売り場には、スリが横行するほど賑わっていた。戦前わが国に亡命した白系ロシア人が、戦後間もない頃、この街角の路上で毛布を売っていた。戦後の物資不足の折、毛布は飛ぶように売れた。どんな事情で、ロシア人たちが鎌倉にいたかはわからないが、戦後の鎌倉にはそんな情景があったのだ。明治22年に開業した鎌倉駅前広場の一角に建つ建物は、カフェーカマクラ以後、鎌倉駅のランドマーク的な存在として今に至っている。  
 「大正時代と昭和初期の頃、鎌倉駅は、モダンな建物で入口には屏風のような折たたみ大きな扉があり、切符を売るところは2ヶ所、その脇には荷物の受付がありました。冬はストーブが待合室を暖めてくれました」

写真・文/平成23年3月1日 鎌倉朝日より



## Milk Hall's Wine Time

ミルクホールのワインタイム

### Piana della Melia

イタリア・カラブリア産 オーガニックワイン

### Ciro Bianco

使用品種 グレコ100% 平均樹齢30年 アルコール度数13%  
 フルーティな香りの、穏やかで柔らかい味わいの白ワインの名品

### Ciro Rosso

使用品種 ガリオッポ100% 平均樹齢30年 アルコール度数14%  
 レーズンの甘みとぶどうを皮ごと味わうような深みが特徴の赤ワイン

グラスワイン赤・白 ¥600  
 ボトル ¥3500

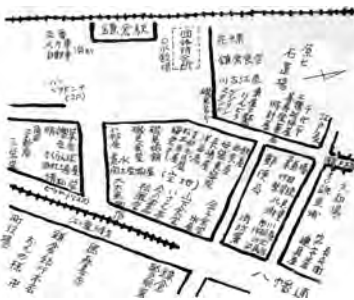
ミルクホールのワインタイムは・・・  
**BAR TIME**には、

ミルクホールお勤めのイタリアオーガニックワインと  
 手作りスモークチーズや、珍しい穀つきナッツと一緒に・・・

**BLUNCH TIME**には、

まだ陽の高い時間にもミルクホールランチセットで、  
 オリーブ・スモークチーズとブレッドプレートで軽なお食事

他にもランチや、お食事とご一緒にお楽しみください。



昭和10年頃の鎌倉駅東口の町並み  
 駅正面に、ミルクホールの先々代が商っていた「磯見旅館」「磯見食堂」「磯見タクシー」がある。この頃、まだ若宮大路に江ノ電の駅があった。松風堂、金子氷店、今川酒店、りんどう、江戸屋、島森書店、山下食堂、現在お隣のいさむ亭など、今も変わらず商売を続ける店の名が見える。今川酒店と金子氷店は、今もミルクホールに、お酒や氷を届けてくれています。

ミルクホール

骨董・ガラクタ市

# 蚤の市

伊万里・古陶磁  
和洋家具  
古民芸  
アンティーク

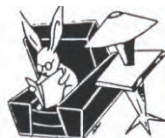
ミルクホールのアンティークは  
明治・大正時代の日本のものを中心に  
古き良き時代の暮らしの中で親しまれた品々を  
手ごろな価格で揃えています。  
中には意外な掘り出し物も...

朝11時 OPEN!

6月のミルクホールの蚤の市は

## 6/18 Sat. 19 Sun.

大正時代の懐かしい日本のものを  
集めました。  
ガラクタ・アンティーク・骨董と  
何でもありの  
ミルクホールの蚤の市です



### ♣ 古陶磁

- ★★★★ 明末染付け徳利
- ★★ 伊万里みじん唐草油壺
- ★★ 伊万里錦絵五寸皿
- ★★ 初期伊万里白磁猪口
- ★★ 伊万里輪茶碗・そば猪口
- ★★ 古伊万里豆皿
- ★★ 大正色絵向付・猪口ほか
- ★★ 大正染付け皿各種
- ★★ 昭和初期印判皿
- ★★ 明治銅版小皿
- ★★ 室町時代大壺

### ♠ 和洋家具

- ★★★★ 大正時代水屋箆筒 1段もの
- ★★ 明治・大正時代小箆筒各種
- ★★ 昭和初期テーブル・デスク
- ★★ 昭和初期丸椅子・カフェチェア等
- ★★ 昭和初期裁縫台
- ★★ 昭和初期ガラスケース各種
- ★★ 明治梯子・昭和の脚立
- ★★ 明治～昭和文机各種
- ★★ 昭和初期窓いろいろ
- ★★ 本立て各種



### ◆ アンティーク

- ★★★★ ドイツ製蓄音機
- ★★★★ 大正時代石油ランプ
- ★★★★ ベネチアンガラス人形
- ★★★★ フランス製50年代秤
- ★★★★ アメリカ製真鍮カレンダー
- ★★★★ 昭和20年代目覚まし時計
- ★★ 大正・昭和初期ランプシェード
- ★★ 昭和ホーローボウル
- ★★ 明治・大正の色ガラス
- ★★ 昭和の照明スタンド

### ♥ 古民芸

- ★★★★ 唐時代獅子像
- ★★ 李朝盆・手提げ盆
- ★★ アフガン石仏
- ★★ 蔵の鉄格子
- ★★ 戦国春秋瓦



7月は、  
梅雨空の下の  
骨董・ガラクタ市です

## 夏の水

### 7/16 Sat.

伊万里・古陶磁  
和洋家具  
古民芸  
アンティーク



## Information

ミルクホールタイムス 総集編

「鎌倉ミルクホールタイムス」

ミルクホールタイムスを1986年の創刊号より、100号までまとめた総集編です。人気連載中の「鎌倉の猫事情」が第一話から第一部の終わりまで、他にガラクタ通信、ミルクホール30年の逸話など掲載しています。

¥1500

ミルクホールタイムス定期購読募集

ミルクホールタイムスは、毎月25日に発行しています。定期購読お申し込みの方には、毎月25日郵送します。お申し込みは、当店か、ミルクホールHPにて。お葉書、FAX、メールなど、お待ちしております。

年間購読料 ¥1500



〒248-0006

鎌倉市小町2-3-8

☎ 0467-22-1179

ミルクホール